

## (株)ケンランド

# リネン・ニットを独自の技術で開発、欧州市場で果敢にプロモーション。国内外バイヤーから注目を集める「ケンランド・コレクション」

東日本大震災から4カ月後の2011年7月、父と娘はフランス・ノルマンディー地方のフラックス（亜麻）の畑を訪れた。震災で夏、秋物のマーケティングができずにいた時期だった。フラックスはリネン（麻の一種）の原料であり人類最古の繊維と言われている。そのリネンをケンランドは独自の技術で柔らかく、軽く、シワになりにくいニット商品として開発、ファッションの本場欧州で果敢にプロモーションを展開している。トランク1つに試作品を詰め込み、販路を開拓するニッターを紹介する。

快適性、心地よさ、美しさ、上品さ、そしてエコロジー。それを実現する素材は何か。30年近く追い求めて来た。そして出会ったのがリネンだった。ノルマンディーの地で光り輝くフラックスの畑を見てこの素材を思う存分使ってみたくと思った。(大沼秀一社長)

リネンは麻の一種。ベルギーやフランス北部、オランダが主な産地。日本には1874（明治7）年、榎本武揚がヨーロッパから持ち帰った種子を北海道開拓長官黒田清隆に送り栽培させた。第1次世界大戦中には北海道全域で4万鉢もの



6年間の休耕を経てノルマンディーの地に咲き誇るフラックスの花。

広大な土地で栽培され主に軍用品の素材として使われた。

### リネンとニットをコラボ

リネンは見た目の美しさはもちろん吸水性、発散性、熱伝導性に優れ、汚れが繊維の奥まで入り込まないため落ちやすい。しかも丈夫で洗ってもシワになりにくいといった特徴を持つ。一方で麻の織物といえば硬くて重くごわごわとした夏の素材というイメージが一般的。ケンランドはリネンの持つ魅力と軽くて、柔らかく、四季を通じて着られるニットの特性をコラボレーションできないかと考えた。従来の製造工程では編みロスが多く商品化が困難。大沼社長とスタッフは丸編み機と横編み機を改良し新製造システムを構築した。独自の技術を駆使しこれまで難しいとされたリネンを素材としたニットの商品化に成功した。

山形県のニット生産は60数年の歴史を持つ。紡績から染色、編み立て、製品化まで一貫生産が可能



な環境を維持している国内唯一の産地だ。ケンランドは昭和23年に大沼社長の父健蔵氏が創業した。健蔵氏は出来上がったニット・セーターを担ぎ、仙山線に乗って仙台に運んだ。編みはもちろん原料入手、デザイン、染色、販路開拓を独自に手掛けてきた。

### 本場に出展、驚きの声

そんなスピリットが大沼社長に受け継がれたのだろう。平成23年、完成したリネン・ニットコレクションの海外展開第1弾としてファッションの本場イタリア・ミラノの展示会に出展したところ、「リネンがニット製品に生まれ変わった」と驚きの声が上がった。1951年に創立され欧州22カ国で1万社を超え



るメンバーを有し、リネン、ヘンプ産業を束ねる中核団体CELC（欧州リネン連盟）に認められ、世界で唯一欧州市場開拓の支援を受ける企業となった。

以来、頻りにコンタクトを取る一方、CELCを通じてフランス、ベルギーなどで生産される最良のリネンを仕入れることができるようになった。

さらに、ベルギーでCELCが主催する第1回ワールドコンgresに招待され、企業・メーカーでただ1社プレゼンテーションを行う機会を得た。「重い、硬い、シワになりやすい」といった従来のイメージを覆し「軽い、柔らかい、シワになりにくい、家庭での洗濯が可能で取扱いが簡単で、夏だけでなく年間通じて着られる素材」とあらためて紹介。リネンの産地ノルマンディーでは地元テレビ局の番組に出演した。

### 二人三脚でプロモート

海外でのマーケティングはその時が初めてだったわけではない。1997、98年からイタリアを中心に自費でせっせと足を運び展示の場を求め続けて来た。そうした経験から展示会では、自信を持って説明するのはもちろん、バイヤーに「いったい何を考えているんだ」と驚き、話題性を与えるのが重要な要素であるということを知った。そのために展示会ではラックはすべて手作り、リネンもふんだんに使う。ワインの産地ではボトルを包むリネンを用意するなどその土地に合わせ工夫した。(大沼社長)。

「これは」と思う展示会には、娘の裕子さんと2人で重さ100kgの試作品を抱え飛んでいく。裕子さんは高校在学中にオーストラリアへ留学。日本の大学を卒業後、イタリアで研修を積んだ。さらに上

(写真右)海外ビジネスを手がける裕子さんはイタリアで研修を積み、現在は香港を拠点にビジネスコンサルティングに携わっている。大沼社長の良きアドバイザーで、海外戦略を立てる上で欠かせない存在だ。(写真左上)大沼社長はCELC(欧州リネン連盟)主催の第1回ワールドコンgresに招待されプレゼンテーションを行った。(写真右下)ミラノでの展示会。ディスプレイもすべて自分で考案し自分で手掛ける。

海への留学を経て現在は香港を拠点に海外向けのマーケティングやビジネスコンサルティングに携わっている。父の頼もしいアドバイザーである。

下請ではだめだ。時代の風を読んで独自の製品を開発、ブランドを立ち上げて国内外の展示会に積極的に出展し市場開拓に努めなければ(大沼社長)。

長年培った技術力、国内外の現場でのさまざまな経験に裏打ちされたエネルギーな行動に関心が高まっている。

(株)ケンランド 創業昭和23年10月、設立35年6月。大沼秀一代表取締役社長。紳士・婦人の横編み、丸編みのニット製品の一貫生産。『Kenland Linen』の企画・製造・卸・販売。平成24年6月、ナチュラル志向のリネン・ニット製品を独自に開発、国内外で積極的な販路開拓、関連業者との連携が評価され経済産業省の地域資源活用事業の認定を受けた。山形市双月町1-3-36。☎023-633-1155。http://www.kenland.co.jp